



公共交通を見直します

OTASUKE WAGON

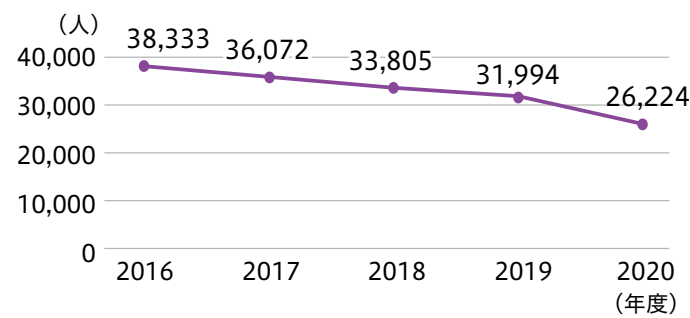
お太助ワゴンの現状

利用者を家の近くから目的地まで運ぶデマンド型の公共交通*で、路線バスの利用者が少ない時間帯(日中)に運行しています。診療所やスーパーマーケットなどに向かう高齢の方が多く利用し、8人の乗車が可能です。

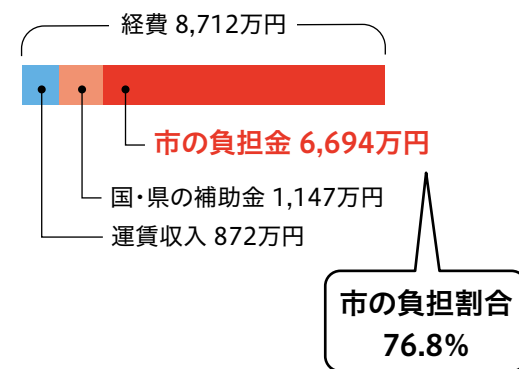
※利用者の事前予約(運行時間・運行経路)に応じて運行する公共交通

お太助ワゴンの利用者の推移

2016年度の約3万8,000人から、5年後の2020年度には約2万6,000人に減少。利用者数が1万人以上減っています。



事業経費の内訳(2020年度)

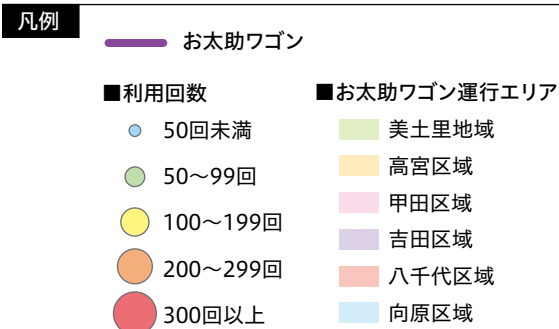


《お太助ワゴンの利用エリア(2021年6月~2022年5月)》



お太助ワゴンの利用状況

地域から旧町の拠点、吉田町中心部、病院などへの利用が多く、自宅と拠点を結ぶ交通手段として活用されています。必要不可欠な公共交通として定着していることが分かります。



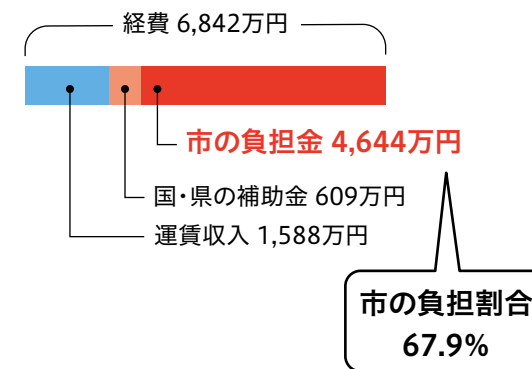
※空白部は、もやい便(川根地区)、とろっこ便(智教寺地区)の運行地域

OTASUKE BUS

お太助バスの現状

事業者が運営する公共交通を補完する形で、主に市内の路線を定期運行しています。通勤・通学時間帯の朝、夕の移動を担うお太助バスは、現在55人乗りと33人乗りバスを運行しており、大人数の乗車が可能です。

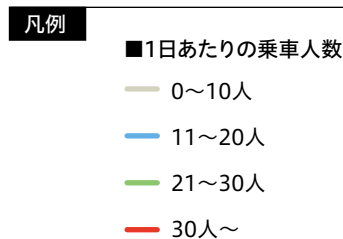
事業経費の内訳(2020年度)



お太助バスの利用状況

お太助バスの1日当たりの乗車人数をしてみると、①風の谷内山線、②式敷線、③船佐線、④上有留線、⑤出口線などの利用者は一部区間で10人未満となっています。これは往路、復路共におおむね同じ傾向です。

現在、利用者が少ない路線も定員55人の大型バスが運行しています。できる限り利便性を下げず、効率的に運行するための検討が必要です。



《お太助バス1日当たりの乗車数(2021年)》



今後は運行事業者、道路管理者、有識者、地域の方などで構成される「安芸高田市公共交通協議会」で議論を重ね、令和5年度から令和9年度までの計画を策定します。